

【ゆりりん通信】Vol.1

(株)タケシバ電機名古屋営業所が開設して、もうすぐ2年になります。これまでに尿量モニタ「ゆりりん」を多くの方々に紹介させていただいてきました。

病院・施設等で活用して頂いておりますが、初めて「ゆりりん」を見る方、聞く方からは『使用事例が欲しい』という声を大変多く頂いております。

そういったご要望にお答えして、今回「ゆりりん通信」を発行することとなりました。今後の施設内での排泄ケアのご参考になれば幸いです。



【ゆりりんケースファイル No.1】

- ・名古屋市内の有料老人ホーム
- ・頻尿の入所者(女性)
- ・昼間に職員が忙しくなる頃に「トイレに行きたい!」と連呼され、夜には多い時で5分おきにコールがある。
- ・利用者様は、膀胱炎で泌尿器科へ通院歴があり、完治して現在に至る。

膀胱炎再発の疑いもあり、そのために

1.膀胱内に尿が溜まっていて出ないのか

2.膀胱内に尿がないのに「おしっこしたい!」と言われるのか

を確認することとなり、ゆりりんでは膀胱内の尿量測定をしました。

測定の方法として、以下の3種類の測定を提案。

1.排尿前の尿量を測定する。

2.排尿量を実測する。

3.残尿測定をする。

今回は1及び3の測定で経過を見ることになりました。

【計測結果】

排尿後にもかかわらず残尿が300mlも残っていることが判明。

はじめは、利用者様が職員の手を煩わせるために「トイレ、トイレ」と言っているだけだと思っていた職員たちも、残尿が300mlもあるのがわかると原因が別にあったと理解し、積極的に測定をされるようになりました。

泌尿器科受診時に測定データを持参すると、医師から『参考になる』と言われたそうです。また、受診の回数が増えてくると、次には実際の排泄量測定の依頼もうけ測定を開始されたそうです。

※ 泌尿器科の医師によると、「残尿(排尿後の膀胱内の尿量)は尿路感染などの原因となる」との事です。